

日本におけるポルトガル語資料

Materiais portugueses no Japão

北村 一親
Kazuchika KITAMURA

筆者は日本ロマンス語学会第26回大会（1989年5月27日）において「キリシタン研究とロマンス語学」と題した共同講演を行なった。その際、いわゆる「かくれキリシタン」の資料にも言及してその中に残された16世紀から17世紀初頭のポルトガル語の特異性に触れた。（学会講演に先立つ1989年5月15日から21日にかけて長崎の大浦天主堂資料室や五島列島福江島を単身で調査し『天地始之事』や『こんちりさんのりやく』などの資料を直接手にして調べることができた。）本稿ではいわゆる「かくれキリシタン」の呼称問題を考えてからこれらの資料中に見られる「キリシタン用語」⁽¹⁾を整理し、16—17世紀のキリシタン資料のものと比較し、原語であるポルトガル語等を示した。

なお略語は本稿末の「略語及び参考文献一覧」を参照して頂きたい。

まず名称の問題であるが、江戸時代の禁教下のキリシタンを「潜伏キリシタン」、明治以後の信教自由時代に潜伏形態を保持した人々を「かくれキリシタン」と区別する傾向がある。⁽²⁾しかし後者の呼称当事者は好まないし、「はなれ」と呼ばれるのも嫌う。そこで筆者は1873年のキリシタン禁制の廃止以降も教会に所属しなかった人々を「非教会帰属キリシタン」と呼ぶことにする。

次に彼らの現状に関してはヴォルペ（1987）に短かい論考の中に深い洞察があり好著である。また宮崎（1986）、（1989）も参考になる。

今回の資料は次の3点である。

『天地始之事』：下村善三郎氏旧蔵本（現天理図書館蔵）を底本とした『天地』を使用し、諸本を校合した『昭潜』83—163や村上近七氏蔵本を底本とした『集成・天地』も利用した。筆者が調査した大浦天主堂蔵本は下川本と称されるものである。本書は聖書や九州西部の民間伝承が融合したものである。写本の出自が五島のものもあるがそれらの起源も長崎県西彼杵郡黒崎である。⁽³⁾生月・平戸系には伝わらなかったことから本書の成立時期を松浦氏によるキリシタン弾圧以後とする片岡弥吉氏の推定や霊名の研究による成立時期の推定という田北耕也氏の提唱は興味深い。⁽⁴⁾書名は1865年5月1日付ジラル教区長宛のプチジャン書簡に“Tendjino Hadhimari [?] no Koto”とある。⁽⁵⁾

『こんちりさんのりやく』〔コンチリサンの略〕：大浦天主堂蔵本を底本とした『略』を使用した。筆者が調査したのもこの写本である。別本を底本とした『集成・略』も利用した。ルイス・セルケイラが1603年和漢字金属活字本として長崎の島原町にあった後藤宗印の印刷所で出版されたと考えられるが⁽⁶⁾刊本は残っておらず写本が外海・五島・長崎系の非教会帰属キリシタンに伝わっている。筆者が調査したところ本書の底本は第四のコンチリサンのオラショが別冊になっていることが判明した。彼らはこの部分をよく使ったのであろう。前文に「又これも相かなわんほどの急死ならば、せめて第四ヶ条目にのする所のおらつしよをすすむべし」（『略』363, 5-6行）

とあるのもこれを裏付けている。

「生月島上方、一部のおらっしゃ（オランヨ）」『洋楽事始』所収。1975年11月13日、皆川達夫氏により収録。爺役出口左吉氏、お番役増山隼吉氏。これらの起源は1591年国字本『どちりいなきりしたん』や1600年『おらしよの翻訳』などである。⁽⁷⁾

前書きの締めくくりとして16世紀のポルトガル語の研究を紹介しておくことにする。（この時代はポルトガル語の文法が初めて書かれた輝かしい時代である。）

概略として Neto (1979) の443—511頁の“O século XVI”の章が適当であろう。当時の文法家 Fernão de Oliveira, João de Barros, Duarte Nunes do Leão を扱った Buescu (1978) やさらに Pêro de Magalhães de Gândavo を加えた Buescu (1984) の研究がある。発音に関しては Hart (1955) や Fernão de Oliveira, João de Barros, Duarte Nunes do Leão の著作から当時の発音を研究した Elia (1981), Fernão de Oliveira の記述から当時の母音を推定した池上 (1969) がある。またポルトガル語の aljama の文献から発音を研究した Teyssier (1981) もおもしろい。Comões の時代の中部方言を考察し *Os Lusíadas* の本文の発音転写を付した Viana (1973) も非常に参考になる。

今回示した資料のうち文献2点は校訂本のとおり平仮名（一部分は漢字）で示し、録音資料は聴取した音声をもローマ字で示した。（音声表記による方法が最善であるが印刷の都合上、できなかった。）

原語は古ポルトガル語と現代ポルトガル語でアクセント記号などを除いて語形の同じものは現代ポルトガル語を示すにとどめた。

〈『天地』、『略』のキリタン用語〉

あだん。『天地』382頁, 12, 15行。383, 5, 7, 8, 9, 12, 14, 15 (2回)。384, 9, 11, 12, 13, 14, 15。現ポ Adão, 古ポ Adam (15世紀), *DELP*, I, 96b。『ムンヂ』Adã [= Adan]。『ぎや』、『どちりな』あだん。

あにま。『天地』407, 12, 13, 14。『略』362, 4, 6 (2回), 8, 15。363, 8, 9。364, 13。365, 6。367, 6。371, 14。374, 2, 9, 18。375, 1, 4, 18。376, 10。377, 1, 10。（現ポ alma<）ラテン anima。『バレット』、『ドチリナ』、『ムンヂ』Anima。『ぎや』、『どちりな』『翻訳』あにま。古野 (1959) 136, アリマ (生月)。

あねいす-てう。『天地』405, 11。ラテン Agnus Dei。現ポ anho de Deus。古ポのラテン語的書法 agno (16世紀), *DELP*, I, 258b-259a。

あべ。『天地』391, 12 (〜丸や)。ラテン Ave Maria。『バレット』、『ドチリナ』Ave Maria。『どちりな』『翻訳』あべまりや。

あぼうすとろ。『天地』404, 12。406, 10。現ポ apóstolo。『バレット』、『ドチリナ』、『ムンヂ』Apostolo。『ぎや』、『どちりな』、『翻訳』あぼうすとろ。

あrikanjy。『天地』390, 10 (さん-がむりや〜)。現ポ arcanjo。

あんめい。『天地』408, 6 (〜ぜすす)。現ポ amem。『ドチリナ』Amē [= Amen]。『どちりな』、『翻訳』あめん。

あんめん。『略』380, 10 (〜ぜすす)。→あんめい。

あんじよ。『天地』382, 9. 383, 2, 3, 6, 9. 385, 12. 387, 14 (2回)。387, 17. 『略』374, 18. 現ポ anjo. 古ポ angio (15世紀), *IVPM*, I, 61 b-c. 『パレット』, 『ドチリナ』, 『ムンヂ』 Anjo. 『ぎや』, 『どちりな』, 『翻訳』 あんじよ。

いざひるな。『天地』391, 3. →いざべるな。

いざべるな。『天地』391, 2, 3, 5. 388, 1 (最後のみ, 「さんた〜」). 『天地』388注, Isabelina. 『どちりな』, 『翻訳』 いざべる。

いぬへりの。『天地』406, 4, 17. →いぬへるの。

いぬへるの。『天地』400, 14. 406, 3. 『略』369, 15, 16. 370, 5. 375, 4. 現ポ inferno. 『パレット』, 『ドチリナ』, 『ムンヂ』 Inferno. 『ぎや』, 『どちりな』, 『翻訳』 いんへるの。

いぬべるの。『天地』403, 16. →いぬへるの。

いんへるの。『天地』405, 15. →いぬへるの。

えきれんじや。『天地』402, 4 (さんた〜). →えきれんじや。

おらつしよ (御らつ所, おらつ所)。『天地』384, 16, 17. 388, 2, 7-8. 396, 1, 7. 399, 2. 403, 2. 406, 6. 『略』363, 6, 7. 377, 12, 13, 14. 378, 16. 古ポ oracio (『略解』1554a). 15世紀 *oratiom IC*, 18, 20, *oraçom, IC*, 13, 6. 『パレット』, 『ドチリナ』 Oratio. 『ムンヂ』 Oracio. 『ぎや』, 『どちりな』 『翻訳』 おらしよ。

おりべて。『天地』404, 14. →おりべてん。

おりべてん。『天地』382, 5-6. ラテン *olivetum*. 『どちりな』, 『翻訳』 おりべて。

おろは。『天地』382, 6. コロハ, 『天地』「補注」506.

がすばる。『天地』393, 1. 現ポ Gaspar.

がむりや。『天地』387, 17 (さん〜). 390, 10 (さん〜〜ありかんじよ). 現ポ Gabriel. 『ドチリナ』 Gabriel. 『どちりな』 がびりゑる。

がらさ。『天地』391, 6. 『略』362, 12. 364, 12. 367, 6. 372, 2, 17. 376, 3. 現ポ *graça*. 『パレット』, 『ドチリナ』, 『ムンヂ』 Graça. 『ぎや』, 『どちりな』, 『翻訳』 がらさ。

がらつさ。『天地』391, 11. →がらさ。

かるわりやう (かるわ竜)。『天地』401, 9, 11, 16. 402, 5, 16. 現ポ Calvário. 『どちりな』, 『翻訳』 かるはりよ。

きりしたん。『略』362, 10, 11. 364, 9, 17. 378, 5, 13 (2回)。現ポ *cristão*. 『パレット』 *Christão*. 『ムンヂ』 *Christan, Christam, Christão, Christaõ*. 『ぎや』, 『どちりな』, 『翻訳』 きりしたん。

きりしと (きり人), 『天地』395, 5 (じゆす〜)。『略』379, 10 (ぜすす〜)。現ポ *Cristo*. 『ドチリナ』, 『ムンヂ』 *Christo*.

きりんと。『天地』404, 5. 現ポ *credo*. 『ドチリナ』 *Credo*. 『どちりな』 けれど, 『翻訳』 けれど。

きんた。『天地』382, 10-11. 現ポ *quinta*.

くるうす。『天地』402, 14. →くるす。

くるす。『略』367, 2. 375, 8. 376, 8. 現ポ *cruz*. 『パレット』, 『ドチリナ』, 『ムンヂ』 *Cruz*. 『ぎや』, 『どちりな』, 『翻訳』 くるす。

くろうす。『天地』401, 12. オ段とエ段の混同は『天地』や『略』の特徴。(土井 (1974) 512). →くるす。

くわると。『天地』382, 10. 392, 9. 399, 12. 現ポ *quarta*.

ころうど。『天地』390, 17. 『天地』390-91注, 古ボ corona (15世紀) *IVPM*, II, 109c.

ころてる(?). 『天地』382, 6, 14. 383, 14. 405, 3. 「エデンの園」又は「煉獄」にあたるが洋語かどうか不明。『昭潜』85参照。

こんすたんち・ほら。『天地』382, 6. 現ボ Constantinopla.

こんちりさん。『天地』383, 10. 『略』362, 8. 363, 11. 364, 8, 9, 10, 17. 365, 4, 7, 13, 16. 367, 10, 14. 368, 5 (2回), 9, 13, 14. 369, 16. 370, 3, 16. 371, 8. 372, 1, 5, 6, 15, 18. 373, 2, 3, 5. 374, 9. 377, 6, 12, 13, 16. 378, 1, 3, 7, 12, 13, 16. 現ボ contrição. 『バレット』, 『ムンヂ』 Contrição. 『ドチリナ』 Contrigam. 『どちりな』こんちりさん。

こんちりさん。『略』368, 6-7. →こんちりさん。

こんびさん。『略』362, 2, 10. 364, 1, 3, 5, 7, 10, 11. 365, 3, 13. 368, 13. 370, 9, 11. 371, 17. 372, 3-4. 377, 18. 378, 1, 3, 14. 現ボ confissão. 『バレット』 Confissão, Confisao. 『ドチリナ』 Confissam. 『ムンヂ』 Confiação, Confissam, Confissão, Confissão. 『ぎや』, 『どちりな』, 『翻訳』こんびさん。

こんゑそうる。『天地』397, 13. 『略』363, 2. 364, 2. 365, 3. 現ボ confessor. 『ドチリナ』, 『ムンヂ』 Confessor(es). 『どちりな』こんへそる。

さからめんと。『天地』395, 16. 『略』363, 15. 364, 1. 現ボ sacramento. 古ボ sacramento (15世紀) *DELP*, V, 135a. 『バレット』, 『ドチリナ』, 『ムンヂ』 Sacramento. 『ぎや』, 『どちりな』, 『翻訳』さからめんと。

さばた。『天地』382, 11. 現ボ sábado. 『バレット』 Sabado. 『ドチリナ』 Sabbado. 『どちりな』さばと。『翻訳』さばと。

さばと。『天地』404, 6. →さばた。

さるべひしな。『天地』384, 16. ラテン Salve regina. 『どちりな』さるべれじな, さるべれじいな。『翻訳』さるべれじいな。

さん (三)。『天地』387, 17 (〜がむりや). 390, 10 (〜がむりや-ありかんじよ). 395, 4, 5 (〜じわん). 405, 14. 406, 1 (〜みぎり). 406, 6 (〜べいとろ). 406, 8 (〜ばうろ). 387, 17. 406, 9 (〜じゆわん). 現ボ São. 『バレット』 São, San. 『ドチリナ』 San. 『ムンヂ』 São. 『ぎや』, 『どちりな』, 『翻訳』さん。

さんた (三た)。『天地』388, 1 (〜いざべるな). 402, 4 (〜えきれんじや). 390, 7. 390, 17-391, 1. 391, 14, 15. 392, 2, 17. 394, 8. 396, 2, 6. 403, 17 (〜丸や). 398, 7-8. 399, 3, 14. 400, 4, 8. 404, 9 (〜ゑきれんじや). 390, 11 (びるじん-〜丸や). 『略』377, 8. 380, 5 (〜丸や). 366, 18 (びるぜん-〜丸や). 現ボ santa. 『ぎや』, 『どちりな』, 『翻訳』さんた。

三ちい島。『天地』401, 12. 現ボ santíssima.

三ち島。『天地』407, 5. →三ちい島。

さんとうす。『天地』406, 10. 407, 10. 409, 6. 現ボ santos. 『どちりな』, 『翻訳』さんとうす。

しくだ。『天地』382, 10. 現ボ segunda.

じすうす。『天地』391, 7. →ぜすす。

じゆす。『天地』395, 5 (〜きり人). 古ボ Jhesu (15世紀) *IC*, 1, 4. 『ドチリナ』, 『平家』, 『ムンヂ』 Iesu.

じゆすへる。『天地』382, 9. 383, 2, 5, 7, 9, 14, 17. 384, 1, 4 (2回), 6, 7, 9, 10. 385, 7, 12. 386, 13. ラテン Lucifer. 『ぎや』るしへる。

十だつ。『天地』399, 5, 12, 17. 400, 2, 3, 10 (2回). 現ボ Judas. 『ぎや』じゆうだす。

じゆりしやれん。『天地』405, 14. 現ポ Jerusalém. 『ぎや』ぜるざれん。

じゆわん。『天地』387, 17. 406, 9 (三〜)。現ポ João. 『ドチリナ』Ioan. 『ぎや』、『どちりな』じよあん。

しろくしさん。『天地』392, 16-17. 現ポ circuncisão. 『バレット』Circuncizão, Circuncisão。

じわん。『天地』395, 5 (三〜)。→じゆわん。

すひりつさんと。『略』366, 16 (ぜすす〜)。古ポ spiritu santo. 古ポ spiritu に関しては15世紀の IC, 1, 9. 1, 13 などに見られる。また16世紀の Lus. 2, 11. 3, 28 に spirito が見出すことができる。『バレット』Spirito Sanct. 『ドチリナ』、『ムンヂ』Spirito Sancto. 『ぎや』、『どちりな』、『翻訳』すひりつさんと。

すひりつさんと。『略』366, 14-15. →すひりつさんと。

すへりつさんと。『略』366, 13. →すひりつさんと。

すへると-さんと。『天地』404, 17. →すひりつさんと。

ぜじうす。『天地』405, 9. →ぜすす。

ぜ十す。『天地』388, 3. →ぜすす。

ぜしん。『天地』392, 5, 9. 現ポ jejum. 『バレット』、『ムンヂ』Iejun. 『ドチリナ』Ieium. 『ぎや』、『どちりな』、『翻訳』ぜじゆん。

ぜすす。『略』362, 5. 363, 9. 364, 14. 367, 7, 8, 11, 16. 371, 17. 372, 10, 13, 15. 375, 16. 380, 4 (以上, 単独). 379, 10 (〜きりしと)。『天地』408, 6 (あんめい〜)。『略』380, 10 (あんめん〜)。なお下は「でうす」であるべきところが伝承の間に「ぜすす」になったもので、校訂者が原本にある「ぜすす」を「でうす」に変えた箇所である。『略』362, 12. 363, 8, 12. 366, 7, 8, 12, 16, 16-17. 367, 6, 8, 11, 16. 368, 7, 9, 11. 369, 4, 8. 370, 2, 6, 16, 17. 371, 11. 372, 8, 10, 17. 373, 3, 4, 7, 13, 14, 16. 374, 6, 8, 15, 17. 375, 1, 10. 376, 3 (2回), 377, 1, 3, 3-4, 7, 9, 10. 379, 18-380, 1. 380, 6. 以上, 単独. 366, 16 (〜すひりつさんと). 366, 15-16 (〜ばあてれ). 366, 16, 17 (〜ひいりよ)。現ポ Jesus. 『ドチリナ』、『ムンヂ』Iesus. 『どちりな』、『翻訳』ぜすす。

せすた。『天地』382, 11. 404, 6. 現ポ sexta. 『バレット』、『ドチリナ』Sexta. 『どちりな』、『翻訳』せすた。

ぜぜ丸や。『天地』395, 15. 398, 15. 現ポ Getesêmane. 『ぎや』ぜせまにや。『どちりな』、『翻訳』ぜつせまに。

ぜんちよ。『略』363, 14. 368, 17. 378, 5, 13, 14. 現ポ gentio. 『バレット』、『ドチリナ』Gentio. 『平家』、『エソポ』Gétio. 『ぎや』、『どちりな』ぜんちよ。

たぼろ。『天地』395, 11, 14. 現ポ Tabor.

たんほう (?). 『天地』382, 15. 聖書のカインとアベルのどちらかに相当するが、この語が洋語かどうか不明。

ちころう (?). 『天地』382, 15. 『天地』「補注」507参照。→たんほう。

つるこ。『天地』393, 1. 現ポ turco.

でうす。『天地』382, 2, 15. 383, 2, 5, 6, 8, 9, 11, 17. 384, 4, 5, 13. 386, 10, 15. 395, 12. 398, 16. 401, 13. 407, 11-12. 408, 4. 『略』374, 12. 378, 16, 17. 以下は漢字「天帝」に振り仮名のあるもの。『天地』384, 18. 385, 15. 386, 5. 395, 13. 407, 18 (以上, 振り仮名「うす」のみ). 382, 8. 383, 2. 390, 5, 6. 397, 4. 404, 8, 16 (以上, 振り仮名「でうす」). 現ポ Deus. 古ポ Deus, IC, 1, 19. Deos, IC, 21, 21 (以上15世紀). Deos, Lus. 1, 6 (16世紀). また IC には Cristo とあるべきところで Deus になっている箇所があ

る (IC, 1, 13). 『バレット』, 『ドチリナ』, 『平家』, 『ムンヂ』 Deus.

てるしや. 『天地』 382, 10. 現ポ *têrça*.

どめいごす. 『天地』 382, 12, 14. 現ポ Domingos. 『ぎや』 どみんごす.

とろん. 『天地』 407, 10. 現ポ *trombeta* の略. 『天地』 の「とろんの貝」とは近年まであったほら見でミサの時間などを知らせる五島の習慣を示す (『集成・天地』 1019, 補註145). 『バレット』 トロンベタ.

ばあてる. 『天地』 404, 16. →ばあてれ.

ばあてれ. 『略』 362, 11. 364, 6, 7. 366, 13, 14 (以上, 単独). 366, 15-16 (ぜすす〜). 現ポ *padre*. 『バレット』, 『ドチリナ』, 『平家』 *Padre*. 『ぎや』, 『どちりな』, 『翻訳』 ばあてれ.

ばうちいすも. 『略』 363, 14-15. 376, 3. 377, 16, 18. 378, 5, 6, 14. 古ポ *bautizmo, bautissimo*, (15世紀), *IVPM*, II, 8c. 『バレット』, 『ドチリナ』 *Baptismo*. 『ぎや』, 『どちりな』, 『翻訳』 ばうちすも.

ばうちいずも. 『略』 363, 17. 364, 4. →ばうちいすも.

ばうちすまう. 『天地』 408, 2. →ばうちいすも.

ばうちすもふ. 『天地』 395, 3. 408, 3-4. →ばうちいすも.

ばうとざる. 『天地』 393, 2. 現ポ *Baltasar*.

ばうろ. 『天地』 406, 8 (三〜). 現ポ *Paulo*. 『ドチリナ』 *Paulo*. 『ぎや』, 『どちりな』 ばうろ.

ばつ所. 『略』 380, 3. →ばつしよ.

ばつしよ. 『天地』 403, 1. 古ポ *passiom* (15世紀) *DELP*, IV, 281 b.

『ドチリナ』, 『ムンヂ』 *Passion*. 『ぎや』, 『どちりな』, 『翻訳』 ばしよん.

ばつば. 『天地』 382, 6. 404, 11 (以上, 単独). 386, 15. 387, 3 (〜丸じ). 現ポ *Papa*. 『ドチリナ』, 『ムンヂ』 *Papa*. 『ぎや』, 『どちりな』 ばつば.

ばらいそ. 『天地』 385, 1-2. 406, 6. →ばらいそ.

ばらいぞ. 『天地』 383, 16. 397, 5. 405, 6. 408, 4 (2回). 409, 6. →ばらいそ.

ばらいそ. 『天地』 385, 9. 395, 10. 405, 15. 406, 10. 『略』 370, 5. 375, 6. 現ポ *paraíso*. 『バレット』, 『ドチリナ』, 『ムンヂ』 *Paraiso*. 『ぎや』, 『どちりな』, 『翻訳』 ばらいぞ.

ばらいぞ. 『天地』 384, 18. 398, 17. 405, 4. 『略』 366, 9. 369, 17. 376, 5. 378, 4. →ばらいそ.

ばらいそ. 『天地』 382, 6-7. 383, 1. →ばらいそ.

ばらん. 『天地』 396, 4, 5, 6. 「Basilicaの転か」(『天地』 396注).

ひいです. 『略』 365, 17, 18. 366, 1, 2, 4. 367, 8-9, 13-14. 368, 17. ラテン *fides*. 『バレット』, 『ドチリナ』, 『ムンヂ』 *Fides*. 『ぎや』, 『どちりな』, 『翻訳』 ひいです.

ひいりよ. 『天地』 387, 16. 404, 17. 『略』 366, 13, 14 (以上, 単独). 366, 16, 17 (でうす〜). 現ポ *filho*. 『バレット』, 『ドチリナ』 *Filho*. 『ぎや』, 『どちりな』, 『翻訳』 ひいりよ.

びるじん. 『天地』 405, 7 (単独). 390, 11 (〜さんた-丸や). →びるぜん.

びるぜん. 『天地』 388, 6 (単独). 389, 15-16. 390, 5, 17 (〜丸や). 366, 18 (〜さんた-丸や). 現ポ *virgem*. 『バレット』 *Virgen*. 『ドチリナ』 *Virgem*. 『ムンヂ』 *Virgem, Virgen*. 『ぎや』, 『どちりな』, 『翻訳』 びるぜん.

ふらんこ. 『天地』 393, 1. Franco<フランク語 *frank* (*REW*, Nr. 3483).

ふるかとふりや. 『天地』 406, 2, 8. 408, 16. 現ポ *purgatório*. 『バレット』, 『ドチリナ』, 『ムンヂ』 *Purgatorio*.

『ムンヂ』74, 21の Purgatrio はおそらく誤植。『ぎや』ふるがとよりよ。『どちりな』ふるがとよりよ, ふるがとよりよ。

べいとろ。『天地』406, 6 (三〜)。現ポ Pedro。『ドチリナ』Pedro。『ぎや』, 『どちりな』べいとろ。

へるそうな。『略』366, 14. 古ポ perssôa(s) (14世紀) CA, XX, 4. ラテン persona。『ドチリナ』Persona。『ぎや』べるそうな。『どちりな』, 『翻訳』べるさうな。

べるそうな。『略』366, 15. →へるそうな。

べれん。『天地』392, 4. 393, 4. 394, 1. 398, 9. 399, 6, 13. 400, 7. 401, 2. 現ポ Belém.

べろうにか。『天地』402, 1. 405, 5, 11. 現ポ Verónica.

べんぼう。『天地』382, 5. 387, 8, 13. 408, 2. 「リンボー (Limbo) の転と察せられる」(『天地』「補注」506)。

ほら。『天地』382, 6. →こんすたんち・ほら。

ほろゑた。『略』377, 1. 現ポ profeta。『ドチリナ』, 『ムンヂ』Propheta。『ぎや』ほろへた。『どちりな』ほろへえた。

ぼんしや・びらうと。『天地』400, 7. 現ポ Pôncio Pilatos。『ドチリナ』Poncio Pilato。『どちりな』, 『翻訳』ぼんしよびらと。

ぼんしや・びろうと。『天地』394, 1. →ぼんしや・びらうと。

まさん。『天地』383, 11, 15. 384, 2, 4, 6, 11. 385, 14. 406, 16. 現ポ maçã。『バレット』Maçã.

丸じ。『天地』386, 15. 387, 3 (ばつば〜)。現ポ mártir。『バレット』, 『ムンヂ』Martyr。『ぎや』, 『どちりな』まるちる。

丸や。『天地』388, 3, 7, 10, 12 (2回), 16. 389, 1, 7, 12. 390, 2 (2回), 5. 390, 6, 12. 391, 4 (2回), 6, 8, 10, 15. 404, 14. 405, 7 (以上, 単独). 391, 12 (あべ〜)。390, 7. 390, 17-391, 1. 391, 14, 15. 392, 2, 17. 394, 8. 396, 2, 6. 403, 17. 『略』377, 8. 380, 5 (以上, さんた〜)。『天地』390, 11 (びるじん-さんた〜)。『略』366, 18 (びるぜん-さんた〜)。『天地』389, 15-16. 390, 5, 17. (以上, びるぜん〜)。現ポ Maria。『ドチリナ』, 『ムンヂ』Maria。『ぎや』, 『どちりな』, 『翻訳』まりや。

まんぼう (?). 『天地』382, 5. 「ポルトガル語 Mundo の転用か」(『天地』「補注」506)。

みぎり。『天地』405, 14. 406, 1 (以上, 三〜)。現ポ Miguel。『ドチリナ』Miguel。『どちりな』みげる。

めしこ。『天地』393, 1. 現ポ México.

めんてう。『天地』393, 1. “Melchiorre” (『昭潜』127, 註199)。現ポ Melchior.

もるたる。『略』364, 4, 13. 365, 2, 11. 368, 11, 15. 369, 11. 371, 4. 373, 13. 376, 16. 379, 18. 現ポ mortal。『ドチリナ』Mortal。『ぎや』, 『どちりな』もるたる。

ようがれしつや。『略』376, 4. 現ポ Eucaristia。『バレット』, 『ドチリナ』, 『ムンヂ』Eucharistia。『ぎや』, 『翻訳』ゑうかりすちや。『どちりな』ゑうかりすちや, ゑうかりすちあ。

よろうてつ。『天地』393, 5, 7. 398, 3, 10. 399, 6, 15. 400, 7. 401, 3, 8. 403, 3. 405, 3 (以上, 仮名のみ)。398, 9 (「よろう鉄」)。400, 6 (同。ただし漢字に「てつ」と振り仮名あり)。現ポ Herodes.

よろうでつ。『天地』393, 7. 399, 13. 401, 3. 403, 17-18. →よろうてつ。

ろうま。『天地』398, 5, 7. 399, 3, 14. 400, 8, 17. 現ポ Roma。『ドチリナ』Roma。『ぎや』, 『どちりな』らうま。

ろそん。『天地』388, 3, 9. 390, 1 (最後のみ「羅尊」に振り仮名が付けられている)。現ポ Luçon (『天地』388注)。

ゑきれんじや。『天地』399, 18-400, 1. 『略』366, 3 (以上, 単独). 404, 9 (さんた-~). 398, 7-8. 399, 3, 14. 400, 4, 8 (以上, 三た-~). 「組織された共同体をエケレシヤ Ecclesia, 教会建築をイゲレシヤ Igreja と区別していた (例外も多少あるが)」(チースリク (1974) 568). 文化語 *eclésia*, *DELP*, III, 261 b. *eglesia* (14世紀) *S. Aleixo*, 150v. 1. 『バレット』, 『ドチリナ』, 『平家』, 『ムンデ』 *Ecclesia*. 『ぎや』, 『どちりな』, 『翻訳』ゑけれじや。

ゑわ。『天地』382, 14, 15. 383, 5, 7, 8, 9, 12, 14, 15, 16, 18. 384, 2, 5, 6, 8, 11, 15. 385, 2, 4, 10, 16. 現ポ *Eva*. 『ドチリナ』, 『ムンデ』 *Eua*. 『ぎや』ゑハ。『どちりな』, 『翻訳』ゑハ。

〈「一部のおらっしゃ」のキリシタン用語〉

anima → あにま。

anmei → あんめい。

arukanzyō. → ありかんじよ。

bautsuruzima. → ばうちいすも。

beniberensya. 現ポ *diligência*.

bensabento. 現ポ *pensamento*. 「おんからだまき」と称する「おらっしゃ」の中の語で第8以下が従来、難解とされてきた。この語も意味不明と言われてきた語でこれは筆者の解釈である。^[8]

beraberantsuransa. 現ポ *bem-aventurança*. 古ポ *bemaumenturança*, *bona* ~ (15世紀) *IVPM*, II, 11c-12a.

berutōsu. 現ポ *virtudes* (複数形). これも「おんからだまき」の中の語であり、筆者の解釈である。‘*yorozu*’の項を参照。

besumusuyasu. 現ポ *primícias*. この分節は筆者の解釈である。『ドチリナ』 *Primizas*.

birisōna. → へるそうな。

birizyen. → びるぜん。

biwatero. 現ポ *beato*.

biwato. → *biwatero*.

deusu. → でうす。

dēusu. → でうす。

domēgo. → どめいごす。

esuteramansa. 現ポ *extrema-unção*.

garassa. → がらさ。

gobisan. → こんびさん。

gururiya. 現ポ *glória*.

hanzyō. → あんじよ。

hasiradōde. 現ポ *sacerdote*.

hideusu. → ひいです。

hīryō. → ひいりよ。
ideu(ra). 現ポ idéia または ideal.
ikirizya. → 多きれんじや。
iniherido. → いぬへるの。
karidāde. 現ポ caridade.
kasusyenzi. 現ポ paciência.
kasuta. 現ポ casta.
kāsutedāde. 現ポ castidade.
katawarika. 現ポ católica.
koheramansa. 現ポ confirmação.
konsyeryāperyāto. → ほんしや・びらうと。
kontirasān. → こんちりさん。
kurosu. → くるす。
madamento. 現ポ mandamento.
mariya. → 丸や。
matirimōreya. → 現ポ matrimônio.
migiri. → みぎり。
mīsa. 現ポ missa.
mozitaru. → もるたる。
nīra. 現ポ mirra.
nomeridāde. 現ポ humildade.
nuberaredāde. 現ポ liberalidade.
ohoroden. 現ポ ordem.
paitero. → ばあてれ。
paraizo. → ばらいそ。
pauro. → ばうろ。
pētoro. → べいとろ。
piwatero. → biwatero。
purosima. 現ポ próximo。
rēi. → でうす。
rensyū. → beniberensya (後半部のみ)。
rusutensya. 現ポ justiça。
ryōsu. → ぜすす。
sabata. → さばた。
san. → さん。
santa. → さんた。
santasumi. → さんとうす。

segare. 現ポ sudário.

sihuta. → せすた.

suberitosanto. → すひりつさんと.

suberitsu. 古ポ spiritu. 「すひりつさんと」参照.

sustansyō. 現ポ sustança, sustância.

syenpuru. 現ポ sempre.

tasika. 現ポ Páscoa.

tenpensya. 現ポ penitência.

tenperansa. 現ポ temperança.

tentosan. 現ポ tentação.

tenzyenmusu. 現ポ dízimo. 『ドチリナ』 Dizmos.

yabosuton. → あぼうすとろ.

yōkanohitiya. → ようがれしつや.

yorozu. 現ポ teologal. 「おんからだまき」の中の語で意味不明とされてきた語である。筆者は yorozu na berutōsu (‘berutōsu’ の項参照。) で ‘teologal の virtudes’ と解釈する。『ドチリナ・キリシタン』の諸本中、‘teologal’ が単数形で使われているのは、『どちりいな・きりしたん』(1591年) だけで「てよろがるのびるつうです」となっている。⁽⁹⁾ 逆に言えば「おんからだまき」という「おらっしゃ」の拠り所となった原本を推定する手がかりとなるのである。

zizōsu. → ぜすす.

zizyen. → ぜしん.

zōsu → ぜすす.

zyen. → じゆわん.

筆者が最後に強調しておきたいのは、従来、キリシタン研究において原語が「ラテン語」と考えられてきたキリシタン用語が、実は当時の生きたポルトガル語であったということである。16世紀は古典文化の見直しと共に多くのラテン語法がポルトガル語に流入した。(例えば *Os Lusíadas* におけるラテン語法を見ればその多様さに驚く。)⁽¹⁰⁾ それらがラテン語から借用された文化語であってもポルトガル語として位置づけられるべきである。

また筆者は日本のキリシタン文献における「らちん Latin」という語がラテン語よりもポルトガル語を基本的に示していると考える。スペイン語におけるこの語の用法や『どちりいな』の最後の文章を考えればこの思いはますます強まるがこの問題に関しては紙幅も尽きたので別稿にて述べることにする。

〈注〉

(1) 「洋語」または「本語」とも言う。後者については『日葡』“Fongo”参照。

(2) 例えば片岡弥吉氏(『略』「解題」630)、フーベルト・チースリク氏(チースリク(1974)589)。

(3) 『昭潜』77。

- (4) 『集成・天地』1002, 『天地』「補注」507.
 (5) 『プチジャン書簡集』80.
 (6) 『略』「解題」628.
 (7) 『集成・オラショ』972, 補註1.
 (8) 『昭潜』403.
 (9) 例えば『どちりいな』79, 2.
 (10) Spina (1987) 11.
 (11) 『どちりいな』81, 14.

〈略語及び参考文献一覧〉

池上岑夫 (1969) 「XVI 世紀ポルトガル語の母音について」『ロマンス語研究』4, 31-37.

ヴォルペ, アンジェラ (1987) 「隠れキリシタンの現状」『名古屋キリシタン文化研究会会報』34, 273-74.

『エソポ』= 『エソポ物語』1593年, 天草. 『文祿二年耶蘇會板伊曾保物語』京都, 再版, 昭和40.

『ぎや』= 『ぎや・ど・べかどる』1599年. 豊島正之『キリシタン版ぎやどべかどる本文・索引』全2冊, 大阪, 昭和62.

現ポ=現代ポルトガル語.

古ポ=古ポルトガル語.

『集成』= 『日本庶民生活史料集成』18. 東京, 1972.

『集成・オラショ』= 片岡弥吉校注「隠れキリシタンのオラショ」『集成』915-76.

『集成・天地』= 片岡弥吉校注「天地始之事」『集成』1001-19.

『集成・略』= 片岡弥吉校注「こんちりさんのりやく」『集成』977-88.

『昭潜』= 田北耕也『昭和時代の潜伏キリシタン』東京, 昭和29.

『大系』= 『日本思想大系・25・キリシタン書・排耶書』東京, 第1刷(2), 1974.

チースリク, フーベルト (1974) 「キリシタン書とその思想」『大系』551-92.

『天地』= 田北耕也校注「天地始之事」『大系』381-409. 「補注」506-10. 「解題」631-34.

土井〔忠生〕(1974) 「『こんちりさんのりやく』『天地始之事』の言葉遣いについて」『大系』510-12.

『どちりいな』= 『どちりいな・きりしたん』1591年, 加津佐(推定). チースリク, 土井, 大塚校注「どちりいな-きりしたん」『大系』13-81.

『どちりな』= 『どちりな・きりしたん』1600年, 長崎. 小島幸枝『どちりなきりしたん総索引』東京, 昭和46.

『ドチリナ』= 『ドチリナ・キリシタン』1592年, 天草. 橋本進吉『文祿元年天草版吉利支丹教義の研究』東京, 昭和3.

『日葡』= 土井, 森田, 長南編訳『邦訳日葡辞書』東京, [新版], 1980.

『バレット』= 『バレット写本』1591年. 『キリシタン研究』7, 昭和37.

『プチジャン書簡集』= 『プチジャン司教書簡集』長崎, 1986.

古野清人 (1959) 『隠れキリシタン』東京, 昭和34.

『平家』= 『キリシタン版平家物語』1592年, 天草. 亀井高孝『キリシタン版平家物語』東京, 1969. 近藤, 伊藤, 池村『天草版平家物語総索引』東京, 昭和57も参照.

『翻訳』= 『おらしよの翻訳』1600年, 長崎. 林重雄『ばうちずもの授けやう・おらしよの翻訳』東京, 昭和56.

宮崎賢太郎 (1986) 「現在のカクレキリシタンの信仰と先祖崇拜」『長崎地方文化史研究』2, 3-4.

同 (1989) 「現代に生きるカクレキリシタンの信仰(上)」『カトリック新聞』3043号.

『ムンヂ』= 『コンテムツス・ムンヂ』1596年. 松岡, 三橋『コンテムツス・ムンヂ』東京, 昭和54. 近藤政美

『ローマ字本コンテムツス・ムンヂ総索引』東京, 昭和55.

『洋楽書始』= 皆川達夫『洋楽事始』東芝 EMI, TW-80002-3.

『略』= 片岡弥吉校注「こんちりさんのりやく」『大系』361-80. 「解題」627-30.

『略解』=海老沢有道「キリシタン主要洋語略解」『日本キリスト教歴史大事典』東京、1988、1553-59.

Buescu, M. L. C. (1978) *Gramáticos portugueses do século XVI*. [s. l.]

—— (1984) *Historiografia da língua portuguesa: Século XVI*. Lisboa.

CA=J. J. Nunes, *Crestomatia arcaica*. Lisboa, sétima ed., 1970.

DELP=J. P. Machado, *Dicionário etimológico da língua portuguesa*. 5 vols. Lisboa, terceira ed., 1977.

Elia, Sílvio (1981) “A pronúncia quinhentista do português,” em *XIV Congresso Internazionale di Linguística e Filologia Romanza: Atti*, V. Napoli, Amsterdam, 197-219.

Hart, Jr., T. R. (1955) “Notes on Sixteenth-Century Portuguese Pronunciation,” *Word*, XI, 404-15.

IC=*Imitação de Cristo*. 15世紀. (Fr. João Álvares によるポルトガル語訳). I. V. Cepeda, *A linguagem da «Imitação de Cristo»*. Lisboa, 1962.

IVPM=A. G. da Cunha, *Índice do vocabulário do português medieval*. I(A), II(B-C). Rio de Janeiro, 1986-88.

Lus. = A. G. da Cunha, *Índice analítico do vocabulário de Os Lusíadas*. Rio de Janeiro, segunda ed., 1980.

Neto, S. da Silva (1979) *História da língua portuguesa*. Rio de Janeiro, terceira ed.

REW = W. Meyer-Lübke, *Romanisches etymologisches Wörterbuch*. Heidelberg, dritte Aufl., 1935.

S. Aleixo = *Vida de Santo Aleixo*. 14世紀. F. Esteves, “Vida de Santo Aleixo,” *Revista Lusitana*, I (1887-89) 332-45.

Spina, Segismundo (1987) *História da língua portuguesa*, III. São Paulo.

Teyssier, P. (1981) “Les Textes en «aljamia» portugaise,” en *XIV Congresso Internazionale di Linguística e Filologia Romanza: Atti*, V. Napoli, Amsterdam, 181-96.

Viana, A. R. Gonçalves (1973) *Estudos de fonética portuguesa*. Lisboa. (*Exposição da pronúncia normal portuguesa para uso de nacionais e estrangeiros*. 1892 が 153-257 に再録).

元南山大学教授、田北耕也先生から『昭和時代の潜伏キリシタン』をお書きになられた経緯やいわゆる「かくれキリシタン」研究の昔日の思い出話をお伺いしながら学問に対するその真摯な姿勢に深い感銘をおぼえた。筆者が長崎、福江への調査旅行に出発する数日前、一夜を徹してこの記念碑的御著作を読み通した時の感激も忘れることはできない。田北耕也先生にこの場を借りて深く感謝の意を表したい。また南山大学教授、青山玄先生には大浦天主堂への御紹介状を書いて頂くなど実にお世話になった。名古屋の南山高校のカトリック神言修道会神父、川上誠先生にも長崎の至る所に御連絡をして頂いた。合わせて謝辞を申し上げたい。長崎の純心女子短期大学学長の片岡千鶴子先生には筆者の突然の訪問にもかかわらず快く応対して頂き多くの資料も頂戴した。立教大学教授、皆川達夫先生には御著作の『洋楽事始』を学会講演で使用することに快諾して頂いた。両先生にも深謝致したい。大浦天主堂での古文書調査に際しては長崎大司教館の諸岡清美神父や資料室の北浦博子氏にお手数をおかけした。長崎で、福江で、そして足をのばした玉の浦でお世話になった方々にも、ここに謝意を表したい。